

バラエティに富んだ
多様な講師陣!!

JICAと
連携!!

アメリカ大使館と
協働!!

学校と共に
300コマ以上の
授業を実践!!

みらスタってなんだ!?

キャリア教育・グローバル教育を
学校と共に実践しています。

高校生や大学生が個性や可能性を発揮して
自分らしく生きていくための学び。
そのために、今どんな教育が必要か。
みらスタで授業してくれた多様な講師たちと
楽しく考える場にします!

●プログラム

- 14:00-14:10 ごあいさつ
- 14:10-14:20 みらスタ講師陣より一言
- 14:20-15:35 パネルトーク&ワークショップ
*楽しくなくっちゃ学びじゃない
- 15:35-15:50 学生のプレゼンテーション
- 15:50-16:00 未来に向けて閉会
- 16:10-17:00 懇親会(同会場)

☆ゲスト

学校の先生方、いろんな国にルーツを持つ人、多様な社会人、学生



☆パネリスト



長谷部葉子氏
慶応大学湘南
藤沢キャンパ
ス準教授



矢野マイケル氏
ガーナと日本のダ
ブル。ミュージシャ
ン。元Jリーガー

☆モデレーター



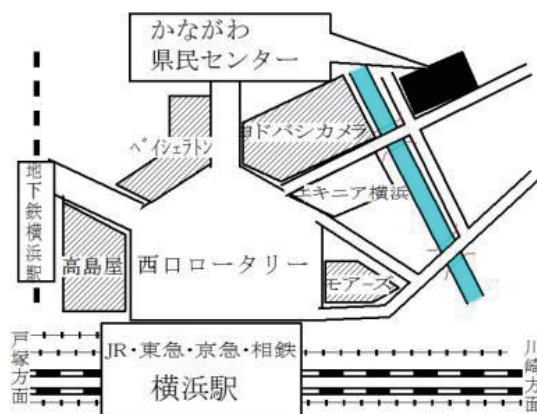
町亞聖氏
フリーアナ
ウンサー(元
日テレ)

無料・要申込

info@mirasuta.net

090-9343-2875 ｶﾅ

090-7224-2109 ｶﾑﾗ



横浜駅きた西口 徒歩3分

主催: NP0 法人未来をつかむスタディーズ

後援: JICA 横浜 神奈川新聞社 tvk テレビ神奈川 青年海外協力隊神奈川県OB会 株式会社SDh

みらスタってなんだ!?

—勉強のその先が知りたかった—

誰もが自分らしく生きている。
それでいて、調和している。

それが、私たちの描く社会ビジョンです。それが、英知の結集された社会、真の民主主義の本来あるべき姿だと思っています。

その実現のために「高校生や大学生が世の中とつながり、将来に向かって自分らしく生きる道しるべとなるような学校を創りたい」そんな想いからみらスタの活動は始まりました。

中高生時代

私はいつも「何のための勉強？」という疑問を抱いていました。「生きていくためにもっと大切なことを教えてくれよ…」と、ひねくれていたこともあります。もし部活(野球)をしていなかったら、学校を辞めていたかもしれません。

勉強の目的。その先にあるもの、社会や世の中、そして、そこで生きる自分のというものをほとんどイメージすることができなかったのです。かといって働く勇氣もない。目的が見えない。今でこそ、そんな時期の在り方が人生を左右することはわかるのですが、当時、眼前の勉強に取り組んでみよう、そう思えたのは高校卒業も間近のことでした。

大学4年

就職活動の時には「自分がいかに世の中のことを知らないか」ということに愕然としました。「どうやって職業を選べというのか…」必死にリサーチをかけても、そこにリアルさが欠けているのです。それは自分の責任でもあります。同級生たちは多少なりとも同じような思いを抱いていたようです。

多くの学生は、自分は何をしたいのか、何ができるのか、その方向性を知る術がないまま過ごすのです。職に就く「就職」というよりは、会社に就く「就社」をする。私も同じように都市銀行に就社しました。

銀行に入社した年

それは、バブルが崩壊して3年。年初から阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件と続き、世の中は暗いムードに包まれていました。社会秩序の乱れ、教育の荒廃などもしばしば話題になりました。私は経済至上主義からの転換、福祉や教育の充実が必要だと思っていました。ところが、経済界、政府やマスコミも「景気の回復、景気の回復」という風潮(と当時の私には思えました)。「この国はお金に浮かれておかしくなったのでは？」

一方で日本経済の中核である銀行に勤める自分。もう一度自分と世の中を見つめ直したいと思い、2年目で銀行を退社しました。

異文化の中で

幼い頃からの世界への興味。また、日本を外から見てみたい。そんな気持ちもあり、青年海外協力隊に参加しました。途上国で野球を教えるという活動でしたが、地球の裏側のグラウンドで、私はいくつかの大切な気づきを得ました。「自分が徹底的に日本人であること」「そのくせ日本のことを、あまりにも知らないこと」「自分が幸せを感じていなければ、誰も幸せにできないこと」

TOYOTA、NISSAN、SONY、HITACHI、MIZUNO、これらの企業が地球の裏側まで潤しているのを見て「これが資本主義が本来目指した姿かもしれない」と、その価値を身を持って感じることも出来ました。

私はこれらの生きていく上での大切な価値観を、私は異文化に触れて初めて獲得できたのです。

生徒たちの声

帰国後は学習塾に勤め、9年間、毎年100人以上の学生と向き合ってきました。勉強を教える傍らで、生徒たちから聞こえてくる声。「先生、なんで最初は銀行に勤めたの?」「アナウンサーになるためにはどう

したらいいの?」「俺、どこまでサッカーできるかな?」「いつか母の故郷メキシコに行きたいんだけど、危ないんでしょ?」

彼らの声を聴いていると、それはかつての私と同じ。彼らはすでに生き方を探し始めている。人生の指針を求めている。そう強く実感しました。私は彼らの声に応えたい。

すべてつながっていた

中高生時代の勉強への疑問。大学での就職活動時の思い。はじめて社会に出て感じたこと。異文化の中で獲得した価値観。向き合ってきた中高生たちの声。自分の道を求めて転々としながら経験してきたこと。そのすべてが、みらスタの活動の源泉です。

これから

想いを発信してみると、共感してくれる人がいました。そして、共に活動してくれる仲間ができました。世の中の各方面で生きる人たち、外国にルーツのある人たち、かけがえない自分の人生を、本気で学生に伝えてくれる講師の方々にもたくさん出会いました。

これからを生きる生徒、世の中を担っていく学生、彼らが自分の個性や可能性を発揮して、自分らしく生きるためのヒント。それを彼らが主体的に掴んでいく。これから、私たちはそんな教育づくりに貢献したいと思っています。

誰もが自分らしく生きている。
それでいて、調和している。
そんな未来に向けて。



NPO 法人未来をつかむスタディーズ
みらスタ 代表 河内智之